

紡（つむ）いであいく
マンションの置き
手紙 住人の20
代お姉さんたちと

都心から少し離れた街に住んでいた俺。

朝まで営業のセクシーな男女たちの客も多いオトナ風なところだった。

派手でセックスばかりの仕事をしてきたけれど、今回はベッドタウンの片隅で工場。

毎晩ベッドの上で凄いことになっていた恋人はひとまず街に残したまま・・・・・・・・。

別れ際に近くのホテルで最後の夜を終えて。

.....今の街も都心の喧騒がすぐ近くにある。

住んでいた街の方が忙しない雰囲気、ゴミゴミしていて都会の喧騒を離れたかったという理由もないわけではない。

マンションは小さな1LDK。部屋は3階。

わりと狭いがキッチンも浴室も綺麗である。

入居初日、隣りの部屋で若い女の子がベッドの上で喘ぐ声がしたのはひとまず置いておいて……。

小さなマンションの一室で……エッチな大人のお姉さんとの妙な手紙交換の日々が始まる。

その手紙は二歳年上のそのお姉さんの廊下越しに見たむっちり太ももとお尻、ジーンズ姿に派生する……。

自分の部屋は三階廊下の一番奥。

一階当たり、5つ部屋が並んでいる。

特に忙しくはしていない平日の夕方だ

った。

向こう側の廊下の壁まで歩き見上げた
夕焼けはとても綺麗であった。

「はあはあ・・・疲れた」

バッグを肘に下げて階段を上って来た

お姉さんは仕事終わりだった。

3つ隣に住むハダカのエッチな女子だ。

夏前の夕方の小さな会話・・・・・・・・。

「へえ・・・・そんなの！！」

お姉さんはほんのちょっと頬を赤らめていた。

お互い引っ越してきたばかり。

一言二言交わし合い・・・・・・・・その夜は
シャワールームでセックス。

そしてその一夜をきっかけに・・・・・・・・。

不気味な置手紙の交換の日々が始まる。

.....○

.....○

狭い自室の玄関の前、ドアに細長い郵便受けがついている。

俺は仕事が忙しくなり、せわしない日々を送っていた。

あの日の夕焼けとお姉さんのやけに大きく見えたそのセクシーなお尻。

その夜はエッチなことばかり考えていたが、

仕事でしばし忘れていた頃・・・・・・・・。

夜、自室に戻ると一通の手紙が郵便受けに入っていた。

カラフルなアニメのようなキャラクターの描かれたハガキ。

綺麗で雑貨屋などのレジ前に置いていそうなものであった。

水シャワーを浴びていた俺は上がった

て・・・慌ててタオルで体を拭き、左手、
ドアに挟まれていた手紙のその存在に
気付く。

バスタオルで拭くが、まだ少し濡れた足
と太もも・・・・・・・・。

廊下とリビングには電気がついていな
いが、窓の外は真っ暗な夜になりかけて
いる。

ハガキは先日廊下で話をしたお姉さんからだった。

お姉さんの衣服を想像した。

「今頃仕事かな？」

．．．．俺は最近仕事が長引いていて、この日は朝遅くまで寝ていて今日はずっと休んでいた。

シャワー後はスマホを触ってもうひと眠りする用意をしていたところ、手に取ったハガキにはこう書かれていた。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)